

総務文教委員会

■地域新エネルギーについて

本委員会では、本市の新エネルギー導入について、調査を進めてきました。

△太陽エネルギー▽市民が仕組みを理解のうえ、太陽光発電を取り組むことができるよう、今後も情報収集と発信が必要です。

地域振興の視点から見たとき、太陽光発電の経済効果は一時的なものに終わることも想定され、地域産業活性化の喚起につながる方策を進める必要があるとの見解に達しました。

△森林資源▽（バイオマスエネルギー）木質ペレットとペレットストーブの一層の普及には、市民周知を継続し市内の需要と供給バランスをとり進めることが肝要との意見で一致しました。△ヒートポンプ・雪氷熱▽ヒートポンプや雪を利用した雪氷熱など、熱や温度差の効果的な利用は、今後の公共施設の改修、改築時に取り入れる積極的な検討を願う意見が出されました。

△廃棄物エネルギー▽（固形燃料）リサイクルセンターは、昭和63年、都市ごみ燃料化施設として全国第1号の取り組みが始まり、現在も年間約2500ト

ンの安定生産で、重油に換算すると本市の公共施設全体を賄う可能なエネルギー量となります。過去の課題であるダイオキシン発生抑制に対応したボイラーも

実用化されてきており、再度市内利用が強く望まれます。

△小水力発電▽河川法の水利権により、新規発電には複雑な手続きと時間を要するとしていますが、国が再生可能エネルギーの導入に積極的な姿勢を見せており、徐々に条件緩和されている状況にあります。今後法改正が進み、権利取得が容易になることも想定され、本市においても関係機関と協議のうえ検討を願うとともに、積極的に取り組む価値があるものと、委員会で意見が一致しました。

総務文教(都市事例調査)

○兵庫県豊岡市

バイオマスタウン構想について、特に木質バイオマス利活用事業における木質ペレットの製造と、公共施設でのペレット利用の取り組みを重点的に調査した。製造と利用が一体的に考えられ、市内の需要と供給バランスが取れた事業推進となっており、平成16年の台風23号を契機に自然機能を見直し、手入れが行き届いていなかった森林や里山の整備など地域課題を解決し、地域振興を図るまちづくりが進められていた。環境と経済が共鳴する仕組みが構築されようとしており、この考え方がまちづくりの一貫した姿勢として、諸所に活かされている点は大いに参考となった。



南丹市八木バイオエコロジーセンター

○京都府南丹市

バイオマスの循環型利用について、八木バイオエコロジーセンターの取り組みを調査し、施設の視察を行った。この地区には、肉用牛、乳牛などの家畜が多く、ふん尿の衛生的かつ効率的な処理が課題であり、食品工場から出る製造過程での残さの再生資源化が背景にあり、これらを集中的に処理し、循環利用するため、堆肥化とバイオガスでの発電に取組んだ経過がある。

○和歌山県新宮市

木質バイオマス利活用の観点から、国内で利用され始めて間もない木質パウダーボイラーの稼動状況と、市内に流れる高田川上流で取り組んでいる小水力発電について調査し、現地での視察を行った。森林資源のバイオマスエネルギー利用が実現した背景には、二つの地域課題を解決しようとする考えがあった。一つには林業及び製材業の活性化、二つには、原油価格高騰の影響を大きく受けた市の公共温泉施設の経営の安定化があった。また、小水力発電に取り組んだ理由は、高田地域の振興を図るためであった。